

## 1 取組名称

2020 東京パラリンピック支援のための教育プログラム開発

## 2 取組組織等

健康福祉学部

## 3 取組実施代表者名

健康福祉学部理学療法学科 教授 新田 収

## 4 取組年度期間

平成 27 年度

## 5 取組の概要

2020 年東京パラリンピックの開催が決定し、健康福祉学部ではこのパラリンピックの支援を積極的に取り組むことを決定している。日本の超高齢化社会そのものが身体障害者と相通じる点が多く考えられることから、そのような人々がスポーツをどのように活用し、どのように社会参加への意味を高めていくかという視点からも、パラリンピック自体が大きな刺激剤ないし触媒になりうると考えられる。さらに、本学部生や卒業生がパラリンピックの支援を体験することにより、高齢者のスポーツ参加へと誘導してくれる可能性を有している。

具体的な取組として、平成 26 年に開始した、障がい者スポーツ体験講座、およびバリアフリー講習会を発展させた形で、取り上げるスポーツ種目の拡大、バリア調査地域拡大、内容の充実を進める。また、健康福祉学部の正式開講科目となっている「障がい者スポーツ論」については、開発したカリキュラムの検証および修正項目の検討を行い、受講者の拡大を目指す。国際的な視点から、海外から訪日されるアスリートに対して、どのような支援が必要かについてもテーマに加え、バリアフリー講習会のカリキュラム開発を進める。勿論アスリートに限らず訪日する多くの旅行者に対し、バリアを感じることなく旅を続けるための支援についても講義のテーマに加える。

2020 東京パラリンピック支援を通じ、本学学生が障がい者スポーツの意義、さらに障がいと生活上のバリアについて理解を深め、このことで卒業後、高い共生の意識を持ちバリアのない社会構築のリーダーとなるべき人材を養成する。

## 6 事後評価の総合評定

2. 9 ※審査会（教育担当副学長及び部局長構成）の審査員が行った 5 段階評価（5～1）の平均点

## 7 事後評価に関する審査会での主な意見

- 社会的要請と教育・研究がマッチングした教育プログラムとなっている。
- 優れた取組であり、2020 年までに他キャンパスでも一部プログラムが実施されることを期待する。
- 本事業の目的である「教育改善」の効果を定量的に測ることができていない。